

平均落札額 47万3千円 種子島子牛せり市

	性別	頭数	月平均	前回平均	前回対比	前年同期対比
中種子	めす牛	106	413,717	511,701	△ 97,984	△ 165,883
	去勢	154	530,357	642,000	△ 111,643	△ 147,707
	計	260	482,804	581,702	△ 98,898	△ 149,407
市場全体	めす牛	275	419,651	516,624	△ 96,973	△ 151,243
	去勢	374	513,872	628,573	△ 114,701	△ 162,988
	計	649	473,948	579,287	△ 105,339	△ 157,825

種子島子牛せり市が、8月21・22日に種子島家畜市場であり、平均落札額は47万3千円となりました。

※単位：円（税抜き価格、速報値）



地域おこし協力隊通信 (No. 68)

手の届く自然

酷暑が残る8月の下旬、関東在住の友人が中種子町へ遊びに来てくれました。2週間と長めの滞在期間で色々なところを案内しましたが、いちばん喜んでくれたのはダクマ(テナガエビ)獲りでした。海より少し冷たい向井川に足を浸けて川底に目を凝らすと、全長に比して大きな腕をしたダクマが見えてきます。彼らは後ろ向きにヒュンッと泳ぐので、後ろに網を構えて前後から挟むのだと教えます。初めは全く手も足も出なかった友人ですが、徐々にコツを掴んで捕獲し始めます。こういう自然遊びは、始まっ

てしまえば大人も子どもも夢中な顔で取り組むので、見ていて、なんだかおかしくなります。

1時間ほど夢中で挑戦した成果は、20匹ほどでしょう。中には結構大きいものも居ます。「素揚げにして食べよう」と笑い合って見上げた空には、秋模様のトンボが数え切れないほど空に影をつくっていました。この美しい景色を見て友人が、「久しぶりに自然と生きているって感

じがした」とつぶやいたのが印象に残っています。今、ニュースを見ればSDGsや脱炭素社会の実現など、なんだか難しい言葉が頻出してきます。私のような一般人はなかなか当事者として考えることができないのですが、そういう時には、今日という日を思い出そうと感じたのです。「もしダクマが獲れなくなったら」「夏の終わりにトンボが居なくなったら」

そういう、手の届く日常の延長線にある未来を考えていると思えば、きっと私たちが自分のこととして捉えられるのかもしれない。

1湯目知史(ゆのめともふみ) | 中種子町地域おこし協力隊員。宮城県出身。種子島の美しい瞬間を文字にして伝えるライター。



ダクマ捕りに夢中になる友人(増田向井川)